

あかしびと

93号 夏期特刊 2015.8.1 発行
日本バプテスト同盟 金沢文庫教会
〒236-0046 神奈川県横浜市金沢区釜利谷西 3-36-20
☎/Fax 045-783-5475 牧師 白根新治



「私の使命」 白根新治(牧師)

少年時代、関東学院の中学生であった兄から教えてもらった讃美歌の一節を口ずさむのが私の習慣であった。

神の恩恵は いと高し
仰ぐ高嶺の 白雪に
朝日匂える ヘルモンの
山にもまさり 高きかな

目 次

私の使命	-----	白根新治(牧師)	---- p. 1
あなたの御言葉は わが足の …	-----	澤野 寛(牧師)	---- p. 1
試練から抜け出る道	-----	白根義輝	----- p. 3
新しい「こどもさんびか」	-----	倉 薫	----- p. 4
MS先生へ	-----	中川澄子	----- p. 6
大切なものは目に見えない	-----	犬塚志朗	----- p. 6

「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です」(前号より続) 詩篇 119 編、105 節 澤野 寛(牧師)

修養会主題「神のことばによって・・・」に関して即想起させられる新約聖書の聖句では上述のマタイ 5:4 ですが、旧約聖書では主題聖句の詩篇 119:105

です。多くのキリスト者が愛唱句としている御言葉であり、今回のこの説教要点を書いている最中に、霞ヶ丘教会の戦前からの信徒の兄が召されました。

この方の愛唱句もこの詩篇の御言葉でした。

この詩篇は詩篇の中で①一番長い詩で、②それぞれ八節の詩からなっております。③日本語訳で（アレフ）（ベト）・・・と段落ごとに記されていますが、これはヘブル語のアルファベットであり、ある注解者は「これは壮大な『いろは歌』である」と語っています。各節文頭に皆同じアルファベットが用いられています。つまりアレフの部は八節ともアレフ文字で書き出されています。また④各節に必ず律法を意味する言葉（さだめ、あかし、おきて・・・）が俳句の季語のように用いられており、⑤「律法讃歌」と呼ばれ、神の律法 について詠んだ詩です。おそらく捕囚中か捕囚後のイスラエルの民に神の律法に従って歩む幸いを教えた詩であると思われま

す。主題聖句の105節の「みことば」も元来は「神の律法」を意味した言葉であろうと思います。それ故、この詩人は神の律法こそイスラエルの民にとって大切な人生の指針となることを詩っているのです。イスラエルの民が捕囚という困難の中にあっても神の民としての自らを失うことなく存在し、生き得たのは律法の故であったこと、これからもそうであることを確認しているのです。私どもは、このような旧約的律法讃歌を読む時にも、前述に記した如く、この「あなたのみことば」を律法のみと限定することなく、キリスト証言としての聖書全体を語るものとして受けとめるのです。「みことば」は私どもにとって主イエス・キリストそのものであるとも言えますし、その主イエス・キリストを証言し、キリストへの信仰に基づいて記された言葉のひとつひとつが御言葉であり、それは私ども一人一人にとって「あなたのみことば」なのです。

「あなたのみことば」と「わたしの道」が対応していることに注目させられます。私どもは、主イエスへの信仰を与えられることにより、そのイエス・キリストを通して主なる神が「神一般」ではなく、またわけもわからぬ「神々」ではなく、また自分が勝手に取り扱い、利用する対象としての「それ」（非人格的物）としての神ではなく、私どもに人格的に語りかけてくる神、また私どもが「あなた」として語りかけることのできるお方としてのイエス・キリストの父なる神を信じる者とされたのです。難しい文章ですがある神学者の言葉を紹介します。

「自分の言の中において自分を啓示する神、すなわち聖書の神のみが人格神であり、これに反して、あ

らゆる哲学的神観は、たとえ有神論的な振る舞いをして、必然的に非人格的である。人格的なものは決して考えられたものではない。考えられたものは本来、非人格的である。これに反して、神である汝と、人間である私とが会うことのみが人格的である。かかる神と自我とが会うことは、啓示の呼びかけと信仰の答えとして起こる・・・信仰においてわれわれが係りをもつ神は『人間によって』語られまた考えられた存在ではなく、つまり形而上学的思弁における『神のような存在や実体』ではなく、またどれ程抽象的に崇高なものとされたにしても一個の思惟対象のようなものではなく、われわれに『汝』とって語りかける『我』として主体である。神は語りかけ働きかけ、自己自身と自己の意志とを伝える人格的なものである」

私どもの主なる神は私どもに語りかける神なのです。その主なる神が語りかけられる「あなたのみことば」が「わたしの道」を照らし出す光なのです。

神の語りかけである「みことばが私の道の光である」との言葉との関連で即想起させられるのは主イエスご自身が「私は世の光である」といわれた言葉です。

私どもにとっては、主イエスご自身が神からのかたりかけとしての言葉であり、「命のパン」（ヨハネ6:48）であり、「世の光、命の光」（同8:12）なのです。主イエスご自身が、わたしはあなたがこの世を生きていくときの光であるといわれるのです。主イエスがおられるところどんな暗闇の中でも光があるのです。

「私に従う者は暗闇の中を歩くことはない」（同）のです。主イエスご自身が私どもにとって光です。しかし同時に主が語って下さったお言葉が、そして主イエスに関する証言としての聖書の言葉もまた私どもにとって私の道を照らし出す光です。

私たちが歩むのは「わたし」の道です。わたしの道は私だけしか歩くことができません。そのわたしの道は決して安易な道でないのです。さまざまな出来事に会いながらの道程であり、いつも明るいと限らない、光と闇とが交差するような思いで歩いてきた道のりであり、これからもそうです。前述の如くこの詩篇の著者は捕囚の民の一人でした。きっと人生の儚さ、厳しさを味わいつくし、暗闇の中を歩いているような悲哀を感じていたのではないかと思います。「光」は日中の太陽の光というより夜中

の蠟燭の「ともしび」を感じさせます。夜、暗闇の中を歩くような、貧しく、また惨めにもさ迷い歩く他ないような、人生の道程を照らし出してくださるのは、それは「あなたのみことば」ですと詩っているのです。

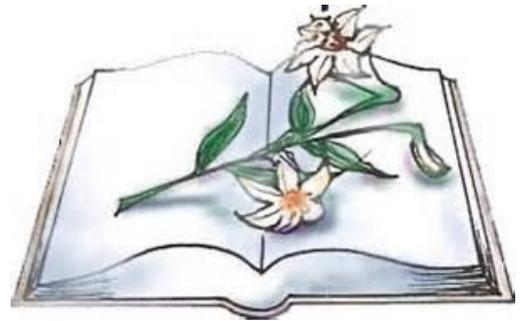
この句において「みことば」と訳されている語は原文ではダーバールという原語です。このダーバールは「出来事」「事柄」という意味もあります。

「みことば」は単なる言語ではなく、それは私の歩みを照らし出してくださるという出来事を与えて下さるのです。次のような詩があります。

わたしは一つのことばに触れる
そしていつももう一つの国に触れる
そのようにして、どれほどわずかであろうが
ますますたしかに、すべてのものにふれる。

私どもは、聖書のみ言葉にふれます。何よりもすばらしい主なる神からの賜物です。そのとき天国に、神の国にふれるのです。この地上の生においてはそ

れは「鏡にみているようなおぼろげなもの」でありましょうが、それでもすこしでもふれることができるのです。それは先立ってやがて約束されているすべてのものにふれることでもあります。聖書を読むことでみ言葉が少しでもそのような出来事となることを祈りたいと思います。



α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω

「試練から抜け出る道」

白根義輝

「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」

コリントの信徒への手紙一 10:13

4~5年前にTBSで、大沢たかお演じる南方 仁というお医者さんが主人公の「仁」というドラマをやっていました。

日曜日の夜が来るのを楽しみに待っており、そして、主題曲が流れ始めると、今日はどんな展開になるのかと、わくわくしたものです。

南方 仁は、現代から江戸時代にタイムスリップし、当時流行していたコレラの対策を立てたり、ペニシリンを抽出したりと、難問に立ち向かい、その都度解決していくのです。その南方 仁が、

「神は、乗り越えられる試練しか与えない」というフレーズを何度も口にしていました。初めて聞いた時、言い回しはちょっと違うけど、聖書のみ言葉かな、と冒頭の聖句を思い出しました。原作者をインターネットで調べましたが、どうもクリスチャンではないようでした。

いつかこの聖句から教会学校でお話をしたいと思っていましたが、なかなかできませんでした。それは、「試練と共に、それに耐えられるよう、『逃れる道』をも備えていてくださいます。」の、「逃れる」という言葉が、どうしても引っかかってしょうがなかったからです。国外に逃れる、追求を逃れる、責任を逃れるなど、悪い意味で使われることが多いことや、問題にまともにぶつからないで逃げ出す、逃避する、という風に考えたからです。また、逃げ出したなら耐えたことにはならないのではないか、逃避するのに、神さまの力は要らない

のではないかと思ったからです。

生きてると、たくさんの矛盾や不公平など、理不尽なこと、試練と呼んでも差し支えないことがあります。確かに聖書にも、「耐えられないような試練に遭わせることはなさない」とは書いてあるとおりで、試練を与えないとは書いてありません。

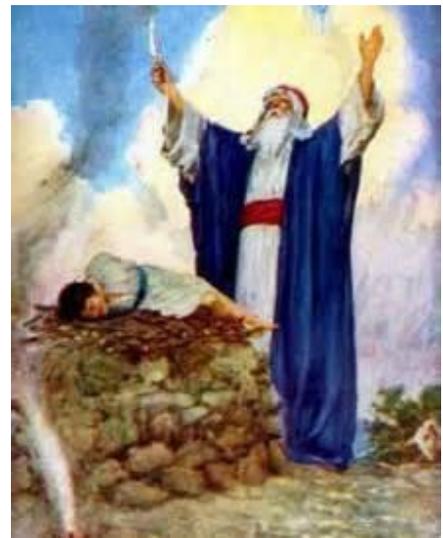
すっきりしないまま時間が経ちましたが、「耐えることができるように、試練とともに『抜け出る道』をも用意してくださる」と訳した表現に出会いました。逃れるという消極的な表現ではなく、試練とぶつかって抜け出る道、解決する道といってもいいと思います。とてもよく分かり、すとん、と納得することができました。

試練の元々の意味は、「信仰・決心のかたさや実力などを厳しくためすこと。また、その時に受ける苦難。」です。その代表的な例として、旧約聖書の創世記に、アブラハムとその一人息子イサクの話があります。アブラハムとサラが、年老いてから奇跡的に授かったイサクを、神様への捧げものとして差し出しなさい、と命令されます。アブラハムは、従順に従い、焼き尽くす献げ物としてイサクを薪の上に乗せて焼こうとした時、神様は、一頭の雄羊を用意してくださいました。こうして、アブラハムに、試

練とぶつかりながらも、抜け出る道が与えられました。

信仰について書かれている聖書の御言葉を、部分的に切り取ってことわざの用に用いたり、一般社会の生活にあてはめようとするとう無理が生じる場合があるかもしれません。

今回とりあげた聖句を、信仰の問題として考えても、また一般論として捉えたとしても、いずれにしても、困難に直面した時に、一人ひとりの生きる力、慰め、優しく背中を押してくれる励ましになればいいと思います。



α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ σ τ υ φ χ ψ ω

「新しい『こどもさんびか』」

教会学校 オルガニスト 倉 薫



キリスト者は、遠い昔から、聖書と賛美歌を大切にしてきました。時代と共に新しい賛美歌が加えられ、その時代にふさわしい歌が、歌い継がれています。

日本の教会も「日曜学校 SS」の時代から「教会学校 CS」、「こどもの教会」や幼稚園・保育園、家庭でも「こどもさんびか」を歌ってきました。

今まで歌ってきた「こどもさんびか」ができたのは、1966年（1～84番）と1983年（85～143番）のことです

いわゆる大人の「讃美歌」が1997年に43年ぶり

に改訂されて「讃美歌 21」が生まれました。この賛美歌集には、大人も子どもも一緒に歌える歌や、世界の国々の歌が入っています。

新しい「こどもさんびか」は、これまでの「こどもさんびか」を土台として、日本や世界の新しい歌を加え、「讃美歌 21」の中から子供の歌える歌を取り入れています。また、こどもの礼拝が豊かになるように、祈りのことばや、詩編のことばも加えられています。

金沢文庫教会はバプテスト同盟に所属していますが日本基督教団出版局の「讃美歌 21」と新しい「こどもさんびか（改訂版）」を採用して、大人も子どもも神さまを求め、世界の平和を祈り求めながら、日々を過ごすようにしています。

《この「さんびか」の主な曲紹介》

◇3 「うれしい朝よ」

作詞者 ランタ・W・スミス メソジストの牧師の父をもつアメリカ・メイン州生まれ、幼少期から教会でオルガンを演奏していた。作曲者C・Aフェイクは詳細不明、時代と共に少しずつことばを変えながら歌い継がれてきたとのこと。

礼拝の朝を迎える嬉しさと、神様への賛美の気持ちがさわやかに歌われています。

◇10 「ことりたちは」

どんなに小さなものでも、神さまは見逃さず、守り、み恵みを与えて下さり、歌の声はたとえ小さくても、かならず神様に届いていてその賛美を喜んでくださっていると歌います。

◇122 「さあ、ともに生きよう」

作詞、作曲 ロルフ・シュバイツァー (1936～) ドイツ・バーデン州のカントールで現代に生きる苦しみ・悩みを見据えた新しい感覚の讃美歌を多く作っています。

この賛美歌は、「主はこの時代の苦しみと悩みを担い」、「人々に出会われ兄弟となり」「新しい自由の道を示し」「その実をパンとして与え」また分かたれた民をひとつとなされる」と歌います。

ドイツが東西に分裂していた時代にはこれは切な

る願いであり、祈りでした

◇123 「わたしは主のこどもです」

この賛美歌はローマ 8:16 の「わたしは神の子どもである」から触発されて生まれてきたのでしょうか。「みことば受け」「人を愛し」「この世の悪打ち破り」とイエスに従う子どもの姿を描いています。

《目次》

◇礼拝文

招きのことば・始めの祈り

派遣と祝福

1. 礼拝 1～37
2. 詩編と頌歌 38～43
3. 聖書の歌 44～62
4. 教会の一年 63～104
5. 教会・子どもの教会 105～109
6. 世界と人間 110～140

◇ともにいのる

主の祈り／十戒／使徒信条／わたしたちの祈り／交読詩編

(参考資料 日本キリスト教団出版局編「こどもさんびか改訂版略解」)

私が文庫教会のCSのオルガンによる奏楽を、毎日朝 9 時から担当しています。神さまは私の手を用いて教会学校の礼拝賛美をリードするようにと、命じられ、礼拝の終わりには牧師が目で「今日のオルガンは・・・」と言われます。

最後に私から皆さんにお願いします。文庫教会の教会学校のご奉仕を共に担っていただけませんか？神様からの召命です。



「MS先生へ」 中川澄子

(MS先生は数年前まで本教会で定期的に説教をしていただきましたが、現在は徒歩困難で礼拝に出席できないとのお手紙を教会宛にいただきました。)

MS先生こんにちは

今日は7月1日ですが、涼しく過ごしやすく感謝ですね。

おからだの具合はいかがですか。痛いところありますか。

祈ります。祈ります。主共に居て下さる安心と、今、守られ、支えて下さっている平安を祈りつづけます。

一昨年暮れにMS先生は礼拝説教の中で、ほんもものの幸せは

生涯を通してひとりぼっちになっても、主も神もいつも一緒に歩いて下さる幸せ。

愛の神の声を心の耳で聞くことができる幸せ。

イエス様を信じ 受け入れ 困った時 必ず平安な道を示して下さいませ。

大きな恵みを少しでもおすそ分けをしたい。と、結んでいらっしゃいましたが、少しどころかMS先生のお説教から、たくさんのいただきものをしています。感謝です。

2013年春には、MS先生の説教で大事なことを学びました。

① 教会の責任者は誰？

牧師を含む教会員全員です。それぞれの努力が必要です。

② 礼拝について

信仰生活には説教から学ぶことが多い。礼拝出席は絶対必要です。説教の進め方・重点が違うのは当たり前、諸先生の説教を聞く事が大事です。

御言葉を行う人になりなさい。聞くだけの人になっては駄目。

支えある人になりなさい。奉仕をしなさい。

努力の先に道が開けます。主と共生の道です。感謝です。

教会では教会員である印の 名札をつけなさい。

本当に大事なことをたくさんたくさん学びました。感謝です。

MS先生、お元気になって下さい。祈ります。祈ります。

素晴らしいお説教を教会では、みんなが祈り待っています。



「大切なものは目に見えない」 犬塚志朗

コリント二 4 : 16-18

だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたち

の「内なる人」は日々新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。わたしたち

ちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

☆☆☆☆

サン テグジュペリ (『星の王子』の作家) の名言より



ぼくの秘密が聞きたいかい？
ちっとも難しいことじゃないんだよ
この世には目には見えなくて、心でしか見えないとっても大切なことがあるってことなんだよ

☆☆☆☆

私の年齢(72 歳)になると今まで生きてきた中で「大切なものは何か？」それがずいぶん変化してきました。

40 数年前、ものが豊かにあることは幸せの条件で、どうしても欲しいと思ってカメラを買いたいと思いました。私の職場の一年先輩はいいのを持っていました。お金がない！なんて不幸だろう、と妬んだことがありました。それでもやっと買えるようになり、すごく嬉しくて！一眼レフ、アサヒペンタックスカメラ、400 倍の望遠レンズも一緒に買いました。そのあと、8mm 映写撮影機、オーディオセット、クロモリブデン鋼フレームの高級サイクリング車、それから駅のロッカーにしまえる、7.5 kg のチタンフレームの軽量携帯自転車、イタリアのオリベッティ電動高級英文タイプライター等々、それらは一時私の心を満たしてくれました。でもそれらの大半は過去の遺物となり、現在は役立たなくなって処分してしまいました。

確かに物は一時的に幸せにしてくれました。でも本当に自分の心をいつまでも満たしてくれたのでしょうか。

私は息子たち二人には幼い頃、ピアノのレッスンに通わせました。行きたくないと恨めしそうに訴えながらいやいや通っていた時もありました。でも、

30 数年後の今はどうでしょう？大人になって二人とも、音楽関係とは全く無関係な会社に勤務しながら、電子ピアノやエレクトーン、ギターを買って楽器演奏を楽しみ、生活を豊かにしているようです。

現在、横浜市立大学名誉教授の著書を読んでいます。その中の自叙伝的部分を一部紹介しましょう。その名誉教授は 1500 g の未熟児として生まれました。「この子は育てぬ。運よく育っても一人前にならぬ。運命だね」と医者から宣告され、母親のおっぱいを吸う力もなく、結核菌に冒され、二歳になってやっとよちよち歩きができるようになったころ、七輪の上の土鍋の中に煮えたぎる熱湯を浴びて全身に火傷を負ってしまい虚弱児として育ったそうです。そして更に高校 3 年真冬に生死をさまよう大病を患い、大手術の後、受験勉強再開、その後東京大学教育学部卒業、同大学院博士課程修了後、京都大学、米国大学 (UCLA) で研鑽、神戸大学教授、横浜市立大学教授を経て、現同大学名誉教授とのことです。

三つの点で幸いしたと回想しているのは、

1. 両親が自分に大きな期待をかけなかったこと。
2. 弱い人間として出発したこと
3. 貧乏であったこと

物の貧しさが心を豊かにしてくれたこと
貧しさゆえに兄弟が仲良く助け合ったこと
ハンディキャップは神のみわざ
だそうです。

○ △ ◇ × ☆ 米

ある新聞のコラムに載っていました。空腹で苦しむ二頭のライオンを哀れに思い、神様が「願いを一つだけ聞き届けてやる」と声をかけた。「最高の子羊の肉を腹いっぱい食べたい」という一頭にはとびきり上等の子羊の肉が与えられた。

別の一頭は何も食べ物はほしくないという。「それでは死んでしまう」と驚く神様に

「いただきたいのは食べ物ではなく上手に獲物を捕る知恵でございます。

基礎基本が身につけば応用は無限に広がる。生き抜く知恵が渴望されている、と。

目に見える物に心を奪われ、それに満足して、私は現在、大きなものを失ってきたことに気づきまし

た。それは目には見えない、知識、知恵、技術、自己訓練、忍耐力、強い意志等々たくさんあります。豊かな知識、知恵等が人生をもっともっと充実させてくれることと思います。若かったときあれもやっておけばよかった、これもやればよかったと思うばかりです。目に見えるものに心を奪われて、うっかり自分自身を成長させることを怠った付けが回って来ました。



α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω

「語らう花たち」 大井法子作

松田みちよ画



α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω

自分たちで教会のペンキ塗り



主日礼拝



平日、こっそり教会の庭の手入れをする夫・妻



礼拝後、説教者を囲んで勉強会兼昼食

